

教科	工業	科目名	住環境デザイン	単位数	2
学科	インテリア科	学年	3 学年	履修区分	選択
使用教科書	色彩検定 公式テキスト2級(発行:株式会社A・F・T企画)				
副教材など	新配色カード(日本色研事業株式会社)				

1. 科目の目的

住環境を計画する際、視覚からの情報が大きな役割を果たすが、特に色を与える心理的効果は大きい。快適な住空間を計画するためには、「色彩」を論理的に理解しておくことが重要である。2年次では光の性質、眼の構造、色の表現など基礎的な知識を学び、次年度で学ぶ専門科目に発展することができる知識・能力を育てることを目的とする。3年次では、ビジュアルデザイン、ファッション、住空間におけるインテリアや景観色彩について学び、生活の中の様々な場面で色の知識を活用できるようにする。

また、色彩検定2級に挑戦し、知識の定着を定量的に把握する。

2. 授業の内容と進め方

教科書を理解させるだけでなく、光の性質や眼の構造などは、動画や写真などを利用し視覚的に理解させたり、配色に関しては配色カードを使用して実際に色を組み合わせながら、体験的に理解させるように授業を進めていく。

3. 学習する上での留意点

色の持つ様々な働き、基本的用語や概念、日常使われている基本的な色名やその由来、光とは何か、光と様々な色彩現象を身近な生活と関わりを持たせながら学習する。

また、色の表現や特性の理解を深めるために、プリント、写真、ビデオなどの視覚的教材を取り入れ理解を深めていく。

4. 課題等について

- 1) 各単元において小テストを行い、そこまでの内容理解度のチェックをし、理解が不足していれば補習・再テストを繰り返す。
- 2) レポートおよび課題プリント

5. 成績評価規準(評価の観点及び趣旨)

評価の観点	評価規準
知識・技術	色彩(色の本質・体系、色の見え方・感じ方、色の混色、配色)、ファッション、インテリア、環境コーディネート等、の基礎的・基本的な技術を身に付けているか。また、新たな視点から応用発展的に捉え、実際に活用する能力と実践的な態度をもち、デザインや配色として具現化する能力を身につけているか。
思考・判断・表現	色彩(色の本質・体系、色の見え方・感じ方、色の混色、配色)、ファッション、インテリア、環境のコーディネーション等の情報の基本的な知識や技術を活用し、思考・判断し、具体的な事象に対して深く考えとともに適切に判断しているか。
主体的に学習に取り組む態度	身近な生活空間にある色のコーディネートに関心を持ち、進んでその色の働きや効果について調べ、得た情報について自分の考えを持ち、伝え合おうとしたか。

6. 評価の方法

評価については、定期考査の成績や課題の提出状況、授業態度、授業・課題への取り組む姿勢を総合的に判断する。

- 1) 定期考査および実力考査
- 2) 課題への取り組み
- 3) 授業への取り組み(出席状況・発表・意欲・ノートの内容)

《指導計画》 科目名 住環境デザイン

3 学年

2 単位

学期	月	学習内容 (単元・考査等)	学習のねらい	評価方法等
一 学 期	4	7.ビジュアル (2)メディアデザインの色彩	ビジュアルデザインにおける色の役割、使われ方について学ぶ。また、私たちの生活において重要な情報源の源になっているメディアのデザインの基本的な色の知識についても学ぶ。	行動観察 質疑応答 課題
	5	8. ファッション (1)ファッションの色彩と配色	ファッションコーディネートの基本的なイメージや分類についての考え方を学ぶ。また、色彩調和で学んだ配色技法がファッションでどのようにいかされるかも写真で理解する。	ノート 中間考査 行動観察 質疑応答 課題
	6	9. インテリア (1)住空間のインテリアとは	住空間のインテリアのカラーコーディネーションを学ぶ。各部屋の目的にあったカラーコーディネーションができるようになること目指す。	ノート 期末考査
	7	(2)住空間のインテリアカラーコーディネーション		行動観察 質疑応答 課題
二 学 期	9	(3)住空間におけるインテリアの配色構成		ノート 中間考査
	10	(4)インテリアスタイルと色彩		行動観察 質疑応答 課題
	11	10. 景観色彩 (1)景観と色彩	景観色彩にかかわる基礎知識を学習するとともに、私たちの生活環境における街並みの景観を整える視点から、景観の色彩設計の配慮すべき事項について学ぶ。	ノート 期末考査 課題
	12	(2)地域の気候風土がつくりだす景観色彩		
三 学 期	1	(3)景観色彩における色彩の基礎知識 (4)生活環境における景観色彩設計		学年末考査
	2			
	3			